

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第23号 2010年2月

事務所：佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL&FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jpURL <http://www.2.odn.jp/unicef-saga/>

§ § § 支部通信はホームページでもご覧いただけます



ハイチ大地震緊急支援

現地時間1月12日夕方にカリブ海の島国ハイチで発生した大地震。建物に大きな被害を受けた震源地から15キロの首都ポルトープランスのユニセフ現地事務所は、地震発生直後より緊急支援活動をスタートさせました。



←©photo Ricardo rduengo

地震後、道に横たわる少女

©REUTERS/EduardoMunoz

地震後、治療を受ける怪我をした子ども

→



ユニセフは、現地で活動する他の国連機関などと協力し、特に安全な飲料水や衛生環境の確保、基礎的な医療・保健支援の分野での活動をはじめました。こうした災害の際に、最も弱い立場に置かれるのが子どもたちです。子どもたちを守り、子どもたちが安心して避難生活を送ることが出来る空間を確保し、仮設教室などでの勉強を続けられるように、ユニセフは、ニューヨークの本部やデンマークなどの物資供給センター、周辺各国のユニセフ現地事務所から、応援の人員や追加の緊急支援物資を被災地に送っています。

ハイチの子どもたちは、今回の震災発生前から非常に困難な状況に置かれていました。ハイチは、世界で最も貧しい国の一つで、国連開発計画の報告書では、179カ国中148番目に位置づけられています。長年にわたり、政情不安や自然災害にも悩まされてきました。定期的に収入が得られる仕事に就いている人は、国民の50人に1人しかいません。子どもたちは、家庭が貧しければ貧しいほど、保健や教育などの基本的な社会サービスの恩恵を受けられないという状況でした。非常に多くの子どもたちや女性たちが、栄養や水、教育、暴力などからの保護など、人として最低限必要なものさえ手に入れない状況だったのです。

2008年にこの国を襲ったハリケーンの被害からようやく立ち直ろうとした時に、ハイチを襲った大地震。ハイチの約1,000万人の人口の半分近くは、18歳未満の子どもたちです。ユニセフは、他の国連機関や人道支援団体とそれぞれの役割を分担しながら、こうした子どもや女性への支援を最優先に取り組んでいます。ユニセフは国連による食糧配布に合わせ、飲料水や簡易調理器具など、ハイチ国内に備蓄していた支援物資の配布をしています。

地震の被害を受け、十分な機能を果たせない首都ポルトープランス空港は、各国からの救援機などで混雑し、さらにその使用が難しい状態が続いています。

このためユニセフは、隣国ドミニカ共和国の首都サント・ドミンゴからの陸路を使い、支援物資をハイチに輸送しています。また、パナマ、コペンハーゲン、ドバイに設置されたユニセフの物資供給センターに備蓄されているテントやビニールシート、浄水剤をはじめとする水や衛生分野の物資、医療資材などの緊急支援物資も輸送されています。

1月13日に現地入りしたユニセフ広報官タマール・ハーンが、18日、被災地の様子を次のように伝えてきました。

「今朝、国連ハイチ安定化ミッション（MINUSTAH）の物流拠点に設置された仮設病院を訪ねました。2つの巨大なテントでつくられたこの病院は、地震で傷ついたハイチの人たちで埋め尽くされています。状況は悲惨そのものです。医師にも患者にも必要な食糧と水はほとんどなく、トイレもないため、尿や排泄物が病院のテントの裏に捨てられています。さらに、治療で切断された手足がゴミの山と化しています。」

ここには遺体安置所もありません。遺体もテントの脇に山積みになっています。今日、手術室が設置され、主に手足を切断する手術をしています。というのも、多くの犠牲者が地震によって砕かれた手足の傷に苦しみ、さらにその傷から病気に感染し、生命を脅かしているからです。今のところ、病院には、この他の手術をする余裕はありません。あらゆる医療物資が不足しています。」

「患者たちのささやき声や痛みから出る悲鳴の中、5人の子どもたちが折りたたみ式ベッドに横たわっています。周囲には、子どもたちに食べ物を与えたり、身体を拭いてくれたり、手を握ってくれる人は誰もいません。」

「ポルトープランスの病院や路上には、食糧も手に入れられず、暴力や虐待を受ける高いリスクを負っている子どもたちが、他にも何百人・何千人といます。たとえ身体的に傷ついていなくても、子どもたちは精神的なトラウマに苦しみ、その傷は一生消えることがありません。栄養不良や病気、性的搾取、人身売買の危機にさらされているのです。」

「被災地で飲料水の配布も始まりました。ハイチの人々は、もはや自宅で眠りにつくことはできません。地震で倒壊した家の住民たちは道路に出て、まだ使える布を繋いでテントを作って生活しています。市内にいくつかある公園には、人々が溢れています。首相官邸の大きな前庭も、キャンプ場と化しました。首相官邸では、5,000リットルの飲料水が、ユニセフが提供した仮設水タンクで配布されていました。この水タンク1基で、1,000人の人々の1日のニーズを満たすことができます。」



©UNICEF/NYHQ2010-0031/Le Moyne ハイチの首相官邸で被災者の話を聞くユニセフのタマール・ハーン広報官



© AP Photo/Cruz 地震発生直後、首都ポルトープランスの路上に集まった被災者たち



© US Fund for UNICEF/2010/Alleyne

ジャクメルのサン・ミシェル病院で医療支援にあたる、米国のボランティア医師たち。

首都ポルトープランスやハイチ南部の港町ジャクメルなどの震災被災地で、ユニセフは、子どもたちの命を守る支援活動を続けています。この震災は、色々な意味で「子どもたちの緊急事態」です。人口の40パーセント近くが14歳未満のハイチ。震災後、子どもたちが最も高い危険にさらされています。ユニセフは、他の人道支援団体と協力して、避難所や児童養護施設、ケアセンターなどで暮らしている最も幼く最も弱い立場に置かれている子どもたちに特に注意を向けています。

ユニセフは、5歳未満の子ども60万人を対象に、はしか、ジフテリア、破傷風の緊急予防接種キャンペーンを開始する予定です。また、急性の栄養不良の増加を防ぐため、5歳未満の子どもたちには、通常の食糧配給と同時に、治療用の栄養補助食も準備しています。

ジャクメルでの支援活動



© NICEF/NYHQ2010-0082/LeMoyné

ハイチ南部の港町ジャクメルの避難所で配布される、ユニセフの支援物資。

ジャクメルでは、ユニセフは、通常の食糧配給を行っている世界食糧計画(WFP)の活動に並行して、震災に見舞われた子どもとその家族のために、とうもろこしと大豆で作られた栄養補助食を配布しています。

歴史のある港町ジャクメルの約4万人の人々は、大きな被害に耐えています。見渡す限りの建設物をことごとく破壊したこの地震により、多くの市民が命を落とし、数千人が住む家を失いました。避難を余儀なくされ、負傷した人々を受け入れるために、教会をはじめとする地元の様々な施設は、仮設の避難所や保健所として、その敷地を開放しています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

☆☆☆ ユニセフはハイチの子どもたちを守るために全力を挙げています。引き続き、みなさまのご協力をよろしくお願いします。

- * 郵便局 (ゆうちょ銀行)
- * 振替口座 : **00190-5-31000**
- * 口座名義 : 財団法人日本ユニセフ協会
- * 通信欄に「ハイチ、佐賀県支部K1-410」と明記願います。
- * 送金手数料は免除されます。
- * お問い合わせ : (財)日本ユニセフ協会佐賀県支部まで
TEL & FAX 0952-28-2077
E-mail unicef-saga@ams.ne.jp

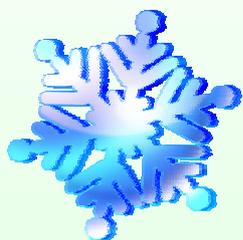




ハンドインハンドへのご協力ありがとうございました！ 総額1,414,555円！！

昨年末の『第31回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド』は「一度も誕生日を迎えられない小さな命、年間600万人」というテーマで実施されました。0歳でこの世を去るために生まれてきた子どもは一人もいないのに、開発途上国で命を失う5歳未満の子どもの69%は1歳未満の小さな命。そのほとんどは適切なケアさえあれば防げた悲劇。そんな子ども達に1歳の誕生日を贈ろうとみんなで力を合わせました。

12月13日・19日・20日と3日間にわたって行われました街頭募金活動は、冷たい北風だったり、小雨だったり、あるいはまた雪がちらついたりといにくのお天気でしたが、小学生・中学生と引率の皆様、高校生、大学生、ボーイスカウト、カブスカウト、そして高齢者団体の皆さま方等、総勢221名にもものぼるボランティアの皆様が参加してくださいました。多くの皆さま方から温かいご支援をいただきました。この街頭募金活動を含め、11月と12月の2ヶ月間にわたって行われました『第31回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金』での募金総額は1,414,555円にもなりました。たくさんの皆様のご支援ご協力ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



©unicef



12月13日（日） 佐賀市：イオンスーパーセンター ゆめタウン 小城市：バニーズ三日月



イオンスーパーセンター佐賀店



ゆめタウン佐賀店



バニーズ三日月店

12月19日(土)

武雄市：ゆめタウン武雄



ゆめタウン武雄店



12月20日(日)

小城市：バニーズ三日月店

上峰町：上峰サティ

佐賀市：玉屋デパート ジャスコ佐賀大和店 ホームワイド佐賀大和店 ベスト電器佐賀大和店



佐賀玉屋デパート



上峰サティ



バニーズ三日月店



ジャスコ佐賀大和店



ホームワイド佐賀大和店



ベスト電器佐賀大和店

ユニセフ出前授業&募金贈呈式

10月24日(土) 柳川市立大和公民館



◆柳川市立大和公民館青少年ボランティア「なんでんお助け隊」の皆さんは、限りある資源「水」について考えました。「Before & After : 2枚の絵」のワークショップでは、井戸ができる前の絵と井戸ができるからの絵を見比べて、村の生活がどのように変わったかを話し合いました。



◆その後で、募金の贈呈がありました。「なんでんお助け隊」の皆さんは、9月27日市民体育館で開催された「柳川市リサイクルマーケット」に出店しました。手作りのマスコットやコースター、かわいらしいバレッタ、ミサンガ、マフラー、更には家庭から持ち寄ったバッグやタオル、食器などの日用品を販売しました。リサイクルマーケットの収益金**9,788**円をユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金にと託されました。

学習を終えて

- ◆ 村にたった一つの井戸ができただけで村の暮らしが大きく変わって、人々が笑顔になって元気になっている。井戸がどんなに大切かよく分かりました。
- ◆ 私は大きくなったら、このような暮らしをしている人々のために働きたいという思いを持っています。その思いを実現したいです。

募金活動 10月25日(日) 佐賀市 アバンセ「どん3の森朝市」会場

◆各地から運ばれてきた海の幸・山の幸・野の幸を求める人々で賑わうアバンセ「どん3の森朝市」会場で、フィリピン台風・サモア・スマトラ沖地震緊急募金活動をしました。会場の皆さまから**18,752**円のご協力をいただきました。ありがとうございました。



募金贈呈式 11月10日(火) 鳥栖市立基里中学校

◆鳥栖市立基里中学校では4月からユニセフ募金活動に取り組みました。校内で募金協力を呼びかけたり、プルタブを集めて換金したり、また、基里小学校の皆さんにも協力を呼びかけたりしました。
文化発表会ではユニセフについて調べたことを発表しました。
このようにして集められた**11,394**円のユニセフ募金を、全校集会で生徒会長より佐賀県支部に託されました。



- ◆募金贈呈の後、ユニセフ募金が世界の子どもたちのもとへどのようにして届けられるか、どのような事業に役立てられているかをお話しました。

パネル展&ユニセフグッズ頒布

11月14日(土)

「日韓交流演奏会〜ラ・エスペランサ第28回定期演奏会」会場にて(佐賀市民会館)



- ◆韓国の「李如石ギターオーケストラ」の皆さまと「佐賀市民ギター合奏団」「佐賀ギターアンサンブル ラ・エスペランサ」の皆さまによる日韓交流演奏会が開催されました。会場は多くのギターファンで満席となり立ち見が出るほどで、日韓友好のギターのハーモニーを楽しめました。
- ◆主催の佐賀ギター音楽院院長、関谷静司先生からユニセフ佐賀県支部のご紹介があり、多くの皆さまにパネルをご覧いただきました。会場でご協力いただいたユニセフ募金は **11,638** 円、グッズのご協力は **19,110** 円でした。ありがとうございました。

ユニセフ出前授業 ～子どもの栄養と未来～

11月17日(火) 柳川市立矢ヶ部小学校



- ◆矢ヶ部小学校(児童数128名)では11月を「ユニセフ月間」として位置づけ、ユニセフ学習をしたり募金活動に取り組んだりしています。
- ◆今年「子どもの栄養と未来」をテーマに学習しました。必要な栄養がたりないために病気になりやすく、毎日多くの子どもがいのちを落としていることや、子どもを守るためのユニセフの活動についてお話をしました。

また、上学年の皆さんは、気候変動と食糧生産についても考えました。この学習のあと、6年生を中心に校内でユニセフ募金活動に取り組みます。

学習を終えて

- ◆ぼくは、日本がほかの国にくらべてこんなにたくさんの食べ物があるって知らなかった。食べ物がない国がたくさんあるので、食べ残しをしないようにしようと思いました。
- ◆必要な栄養がたりなくて毎日多くの子どもがなくなっているのにおどろいた。少しのお金でも子どものいのちが助かるのでユニセフ募金をがんばりたいです。



ユニセフグッズ頒布

11月22日(日) 日本バプテスト連盟佐賀キリスト協会(佐賀市)



- ◆日本バプテスト連盟佐賀キリスト教会で、「収穫感謝礼拝」の後にユニセフグッズの頒布をしました。礼拝においでになった皆様は、毎年、ユニセフのクリスマスカード・ギフトを楽しみにしてくださっています。

募金贈呈式 12月22日(火) 佐賀県支部事務所



- ◆佐賀市立東与賀中学校では毎年ユニセフ募金活動に取り組んでいます。今年も生徒会奉仕部の皆さんが11月いっぱい各クラスに募金箱を設置して生徒の皆さんに協力を呼びかけました。
- ◆奉仕部の2人の生徒さんと担当の先生が事務所を訪れ、全校の皆様からご協力いただいた募金を贈呈されました。11月、12月はユニセフ ハンド・イン・ハンド月間ですので「1歳の誕生日を迎えられないような小さな子どもの命を守るために役立ててください。」と手渡されました。

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン 1月11日(月) ジャスコ佐賀大和店(佐賀市大和町)



- ◆毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれます。この日は、お客さまがレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れていただくと、お買い上げ金額合計の1%が地域ボランティア団体などに寄贈されます。
- ◆佐賀県支部も投函BOXを用意していただいております。イオン・デーのこの日に、キャンペーンの輪を広げるためのイベントに参加させていただきました。ユニセフへのご協力を呼びかけますと多くのお客さまが黄色いレシートを入れてくださり、投函BOXは「幸せの黄色いレシート」でいっぱいになりました。皆様ありがとうございました。

ハイチ大地震緊急募金活動 1月24日(日) ゆめタウン佐賀(佐賀市兵庫町)



- ◆ハイチ大地震緊急支援募金活動をゆめタウン佐賀店で行いました。通りがかった中学生の飛び入りでのボランティア参加に力を得て、お客様に「ハイチの子どもたちのためにご協力をお願いします。」と呼びかけました。
- ◆小さな子どもさんからご年配の方まで、多くの方々から計**61,784**円もの浄財を寄せていただきました。このお金は日本ユニセフ協会を通じてニューヨークの本部に送られ、ハイチの子どもたちを守るために使われます。募金にご協力いただいた皆さま、遠方より駆けつけてボランティア協力して下さった皆さま、飛び入りで手伝って下さった佐賀市立城南中学校サッカー部の皆さま、そして快く会場をご提供くださったゆめタウン佐賀店さま、たくさんの皆さまに心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



◆トヨタ紡織九州株式会社職層会の皆さまがハイチ大地震支援のために集められた義援金を事務所までお届けくださいました。ご協力くださった皆さま、大変ありがとうございました。

これからの予定



1. 2月3日(水) 出前授業
上峰町立上峰小学校 6年 「世界に目を向けて」
2. 2月5日(金) 出前授業
三潞郡大木町立大溝小学校 6年
「この世界に生きる子どもたち」～わたしたちにできること～
3. 2月11日(木) 14:00～ 募金活動&ユニセフグッズ頒布



佐賀市白山 エスプラッツホール
「関谷静司ギターコンサート」会場にて
ハイチ大地震緊急募金活動&ユニセフグッズの頒布

4. 3月3日(水)～3月9日(火) 佐賀市iスクエア さが市民活動プラザ4F
9:00～22:00 ただし、最終日は15:00まで。

ユニセフ・パネル展「気候変動と子どもたち」

☆ 3月7日(日) 14:00～ パネル展会場にて
ユニセフおはなし会 「わたしが見たブルキナファソ」
話し手: 大島清美さん
※詳しくは12ページ、同封のチラシをご覧ください。

5. 3月22日(月・祝) 9:00～17:00 佐賀市天神アバンセ
～世界一参加したい授業のお祭り～「あそまなぶ2」
ユニセフすごろくであそぼう!

✿ 佐賀県支部では、イベントのお手伝いをしてくださるボランティアを募集しています。

お問い合わせは事務局まで。TEL & FAX 0952-28-2077 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

ご支援・ご協力ありがとうございました！

佐賀大学医学部ムツゴロウ祭実行委員会様 佐賀善意銀行様 コープさが生活共同組合様
佐賀ギター音楽院様 佐賀市文化会館様 ファミリーマート大和店様 カイセイ薬局荒江店様
サンシャレー様 ヘア&フェイスドゥース様 **TSUTAYA** 鍋島店様 ぬくもりの会様
佐賀シール工業様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 ボーイスカウト佐賀 1 団様
栗原内科消化器科様 矢山クリニック様 佐賀リハビリテーション病院様 アルタ開成店様
アルタ高木瀬店様 村岡屋卸本店様 村岡屋駅南店様 えんぴつ館様 川崎自工様
恵比寿鍼灸整骨院様 多布施クリニック様 ホテルニューオータニ佐賀様 (株)北島様
モンテカルロ太陽様 ホンダパーツ西南佐賀営業所様 内田整体院様 やきとりぼん太様
風羅坊様 三瀬そば様 佐賀空港ターミナル様 レストランカンフォーラ様 みねまつ歯科様
山小屋ラーメン南佐賀店様 山小屋ラーメン川副店様 いっせい麺処様 東洋館様 ガイルス様
エクセルウェンズ様 **Hear&MakeEXCEL** 様 いちはら耳鼻咽喉科クリニック様 母子草様
吉原内科様 大和公民館なんでお助け隊様 日本バプテスト連盟佐賀教会様 (株)モトシマ様
龍谷高等学校特進科様 矢ヶ部小学校様 思斉小学校様 白石中学校様 三日月小学校様
富士南小学校様 相知中学校様 大和中学校様 東与賀中学校様 基里中学校様
城東中学校様 最所安田法律事務所様 蜂谷法律事務所様 はなみずき会様 団野法律事務所様
「庭の駅」実行委員会様 大和小学校様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様
トヨタ紡織九州株式会社職層会様
(株)山二商会様 雇用能力開発機構佐賀センター様 道海島小学校様 山口商事様 小野商店様
大塚製薬佐賀工場様 エコプラザ様 副島病院様 県庁職員組合様 サニーハウス様
第一生命佐賀支社様 佐賀共栄銀行秘書グループ様 千代田中部小学校 P T A 様
すぎの子文庫様 佐賀市高齢福祉課様 佐賀市役所秘書課様 上峰小学校様 三日月中学校様
ボーイスカウト佐賀 5 団カブ隊様 ボーイスカウト鹿島 1 団様 (2009 年 10 月 16 日～2010 年 1 月 28 日)

★ いろいろな形でのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。この欄でのご紹介は企業・団体のみにさせていただきます。個人の方からもたくさんのご支援をいただいておりますが、平成 17 年 4 月 1 日からの「個人情報保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

★ みなさまからお寄せいただく募金は、たとえば、次のようなものにも使われます。

募金のできる支援例 2009 年 1 月現在の価格 1 米ドル=105 円で計算 (小数点以下四捨五入)

【緊急事態における子どもの保護】



105 円 : 緊急事態下の栄養不良の子どものために特別に開発された、高カロリービスケット 1 箱 (包み)、子どもひとり **3 日分**の食料。



332 円 : 子どもを寒さから守る、大きめのウール製毛布 **1 枚**。



1,260 円 : 家庭用水キット **1 キット**。1 世帯分の貯水容器、バケツ、石けんや浄水用錠剤などが入っている。

～ 日本でのユニセフ支援から 60 年～



©日本ユニセフ協会



©日本ユニセフ協会

嘗て日本もユニセフの支援を受けていたことを知る年代の方々が少なくなってきました。

第2次世界大戦のあと、日本の子どもたちも食べるもの、着るものがなくて困っていました。そこで、ユニセフは1949年から1964年（東京オリンピックが開催された年）までの15年間にわたり、日本の子どもたちを支援しました。

給食用の粉ミルク（脱脂粉乳）、薬、服の原料（原綿）などがユニセフから届けられました。当時の政府はこれらの支援をもとに、保育所や学校で「完全給食*」を目指し、原綿を国内加工し、子ども用の衣類を作って配布しました。《*完全給食とは、給食内容がパンまたは米飯（これらに準ずる小麦粉食品、加工食品その他の食品を含む。）、ミルクおよびおかずである給食をいう。…学校給食法施行令》

ユニセフから日本への支援の総額は当時のお金で65億円にもなりました。

では、どうしてユニセフはできあがった衣服ではなく、衣服の原料（原綿）を送ったのでしょうか？

それは、自分たちの服は自分たちで作ろう、という自立を促すためです。日本にはもともとすぐれた繊維産業がありました。もしできあがった衣服をおくってしまったら、その産業はすたれてしまいます。

原料をおくればその技術を使って布や衣服をつくることができ、日本の経済を発展させることにもつながる、と考えられたのです。

ユニセフのこうした自立をめざした支援は、形は変わっても精神は今も変わりません。

【資料提供 日本ユニセフ協会】

佐賀新聞（2010年1月22日付） 有明抄

「先生からユニセフ物資のことについてお話があった時、私達一同はおどろきと喜びにあふれた顔を、おたがい見合わせました。その日が来るのを今日か明日かと、まちこがれていたのですが、ついにその日がやってまいりました（後略）」◆1949（昭和24）年、東京都文京区誠之小学校6年宮重弘子さんが「ユニセフ物資感謝の言葉」として書いたものである。季刊「ユニセフニュース」224号は日本でのユニセフ支援が始まって60年を特集しているが、その扉に宮重さんの作文を紹介している◆小学生が書いたとは思えないしっかりとした文章。感謝の気持ち、給食への期待と喜びがあふれている。戦後の食糧難で子どもたちはいつもおなかをすかせ、みんなひもじい思いをしていた。そんな日本の子どもたちの窮状にユニセフは脱脂粉乳（粉ミルク）と原綿の支援を決めたのである◆支援物資第1号が到着したのは1949年9月18日の神戸港と10月1日の横浜港。粉ミルクは給食用、原綿は子ども用下着をつくるもの。食糧も下着も十分でなかったのだ。港では感謝の会が開かれ、会場は子どもたちの笑顔であふれたという◆当初は全国にモデル校を設置。誠之小学校もその一つだった。粉ミルクの栄養改善比較を実施、効果が確認されてから粉ミルク支援は全国に拡大された。宮重さんは「ユニセフさん、本当にありがとう」と結んでいるが、60年前の日本にそんな姿があったのだ◆今、日本で子どもの栄養失調など死語に等しい。好きなものが腹いっぱい食べられる。でも、この地球上には60年前の日本の子どもたちのように、ひもじくて泣いている子どもたちがいる。そのことをまず知ろう。知ることが行動につながっていく。（賢）

「気候変動と子どもたち」

～ アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のブルキナファソ視察報告～

3月3日～3月9日 佐賀市iスクエアさが市民活動プラザ4F



UNICEF/HQ02-0511/Ami Vitale



- ◆ ブルキナファソは、西アフリカにあるサハラ砂漠の南にある内陸国です。国土面積は **27万4,200** 平方キロメートル（日本の約 **70%**）約 **1,500** 万人が住んでいます。世界で最も貧しい国のひとつで、国民の半分は **1日1ドル**以下で生活をしています。
- ◆ アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使は、**2009年4月13日**から**23日**までブルキナファソを訪問、**1,000km**を走破して、開発途上国の気候変動は子どもたちにどのような影響をもたらすかを視察しました。
- ◆ 砂漠化が深刻なサヘル（サハラ砂漠南縁部に広がる半乾燥地域）に位置する中部以北では、気候変動の影響が深刻で、国民の生活が脅かされています。北部では干ばつが繰り返され、湖が干上がり、穀物が作れなくなり、降水量が多い南部に移動せざるを得ない「気候移民」が増えています。
気温 **45度**、北部にある国内最大の金鉱「エサカン」では、農業が出来なくなった約 **11,000** 人が働いています。ここでは、お腹をすかせた幼い子どもたちも砂金を求めて必死に働いています。
- ◆ 砂漠化による農業への影響、森林の崩壊、干ばつによる食糧不足、・・・最大の被害者となっているブルキナファソの子どもたちの姿を写真で紹介します。お誘いあわせのうえ、どうぞお出かけください。

【資料提供 日本ユニセフ協会】

- ★ パネル展「気候変動と子どもたち」の日時、会場等の詳細についてはチラシをご覧ください。
- ★ **3月7日（日）**に、**2008**年の秋にブルキナファソを訪問された大島清美さんによるおはなし会「私が見たブルキナファソ」を開催します。ブルキナファソってどんなところでしょうか？皆様のおいでをお待ちしています。（準備の都合上、**3月5日**までにお知らせいただいたらありがたいです。）
- ★ 開催中、スタッフが不在の場合がありますことをお許しください。（事務局では会場当番のボランティアを募集しています。）

